

# 大野城跡

## (四王寺県民の森)

散策マップ



写真：百間石垣

### アクセスMAP

JRで!

博多駅 香椎駅 天神 博多駅 福岡空港

約10分

長者原駅 約30分

約20分

宇美駅

徒歩

約80分 (約6km)

西鉄バスで!

天神 博多駅 福岡空港

約50分

約40分

約30分

宇美営業所・宇美町役場入口

約5分

県民の森入口

徒歩

約60分 (約4km)

車で!

福岡IC 太宰府IC 須恵スマートIC

約30分

約20分

約20分

大野城跡 (四王寺県民の森センター)

平成27年12月 発行

発行・編集 宇美町役場 まちづくり課  
 監修 宇美町教育委員会 社会教育課  
 協力 九州産業大学 芸術学部 三枝研究室

内容に関する問い合わせ  
 宇美町教育委員会 社会教育課 TEL092-933-2600

宇美町役場 まちづくり課  
 〒811-2192 福岡県糟屋郡宇美町宇美5丁目1番1号 TEL092-934-2370

## 大野城跡とは

大野城跡は、宇美町・太宰府市・大野城市にまたがる四王寺山にある古代山城です。城の範囲は、東西約1.5km、南北約3kmの範囲であり、大野城跡最大の石垣「百間石垣」や「増長天礎石群」、「毘沙門堂」など、城内の約80%が宇美町内にあります。

大野城跡は、重要な遺跡であることから、国指定特別史跡に指定されています。

## 大野城跡はなぜ築造されたのか

7世紀の初め頃、朝鮮半島では、高句麗・百濟・新羅の三国が互いに戦争を繰り返していました。660年、百濟は、中国を統一した唐と新羅に攻められ、滅亡してしまいます。百濟の遺臣は、倭(日本)に救援を求め、これに応じた倭は、西暦663年、百濟を救援するため、朝鮮半島に出兵します(白村江の戦い)。救援に向かった倭でしたが、唐・新羅連合軍に敗れてしまいます。この結果、連合軍の日本侵攻が想定されたため、664年に大宰府政庁(九州の政治拠点)を防衛するための水城を造り、その後、665年に大野城が築造されるのです。大野城は、大宰府政庁を守るためのお城であるとともに、大宰府都城の外郭形成の一部であったとも考えられています。

大野城築造に関しては「日本書紀」天智四年秋八月(665年)に以下の記録があります。

「だちそちおくりふくる 達率憶礼福留・だちそちしひふくふ 達率四比福夫を筑紫國に遣して、おののおよ 大野及びふたつのきつ 椽、二城を築かしむ。」

この記録から、大野は四王寺山にある大野城、椽は福岡県筑紫野市と佐賀県基山町にまたがって所在する基肆城のことで、「二城を築かしむ」とあることから、この年に大野城と基肆城を築城したことがわかります。また、築造には、憶礼福留と四比福夫という百濟の高官の技術指導があったことが読み取れます。

## 大野城跡の構造

大野城跡は、四王寺山の尾根や谷部を全長約8kmにも及ぶ長大な土塁で囲んだ巨大な山城です。土塁とは、敵の侵入に備えて造られた城壁のことです。質の違う土を数cmごとに積んでは叩きしめるという工法で巨大な土塁を造っています。このような工法を「版築（はんちく）」といいます。

一部では石垣を造っています。百間石垣・大石垣・北石垣・小石垣・水ノ手口石垣などがあり、なかでも、宇美町側から県民の森センターに向かう途中の右側にある百間石垣は、全長約180mにも及ぶ立派な石垣です。

城には、必ず出入口が必要です。現在、9箇所で城門跡が発見されています（宇美口城門・太宰府口城門・坂本口城門・水城口城門・原口城門・北石垣口城門・小石垣口城門・観世音寺口城門・クロガネ岩城門）。

お城の中には、多くの建物があったと推定できる礎石建物跡が70棟以上見つかっています（主城原礎石群・村上礎石群・尾花礎石群・増長天礎石群・猫坂礎石群・広目天礎石群・八ツ並礎石群・御殿場礎石群）。尾花礎石群は焼米ヶ原とも呼ばれており、そこでは炭化した当時のお米を拾うことができることから、多くは食糧保管庫であったと考えられています。

## その後の大野城跡

大規模な土木工事によって造られた大野城でしたが、半島から連合軍が攻めてくることはありませんでした。

ところが、その後、新羅が日本を呪って祈禱しているという噂が広まったため、774年、大野城跡に四天王寺（四王院）というお寺が建てられます。現在、四王寺山という名前で呼ばれている由来は、奈良時代に建てられたこのお寺と考えられます。

現在、四王寺山には、四天王である「毘沙門天」「広目天」「持国天」「増長天」と呼ばれる地名が残っています。これも四天王寺の名残といえるでしょう。

お寺の創建当初の建物跡などは発見されておらず、その実態は謎に包まれたままです。

### ⑨ 宇美口城門跡



宇美町立歴史民俗資料館に展示中の礎石

百間石垣の横の道路になっている部分に、本来は「宇美口城門」があったと考えられています。城門の礎石は、横の川の底から発見され、宇美町立歴史民俗資料館と「県民の森センター」に展示されています。

資料館と県民の森の礎石は、形状が異なっていることから、建替え等による城門の変遷があったと考えられます。

### ⑩ 北石垣



百間石垣から土塁線上を東に登って行くと北石垣があります。

この石垣は、版築土塁の外側に石を張り付けるように造られていることがわかっています。この構造を「貼石垣」と呼び、百間石垣のようにすべて石で造られているものと異なる構造となっています。谷間ではなく尾根先端部に張り付くように造られていることから、城外から敵に目がつくように造られたものと考えられています。

### ⑪ 北石垣城門跡



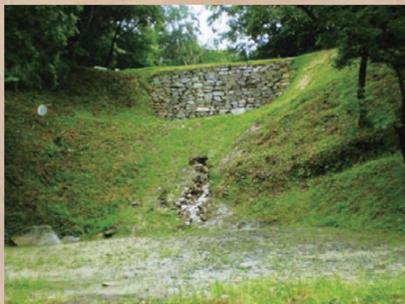
鉄製軸受金具出土状況  
(資料提供：九州歴史資料館)

北石垣そばにあります（現在は埋め戻されています）。平成15年の水害後の発掘調査によって発見されました。

発掘調査の結果、城門前面に1mほどの石垣を造り、段差をつけていることがわかっています。これは「懸門」と呼ばれ、普段は梯子などを架け、城門を出入りし、敵が攻めてきた場合はこの梯子をはずし、段差をつくりだすという防御性に優れた構造となっています。

また、調査では、門の開閉道具である「鉄製軸受金具」が礎石に付着した状態で出土しています。

### ⑫ 小石垣



大きな谷をふさぐ形で造られており、本来は現状より長い石垣があったと考えられています。

現在は整備され、綺麗な石垣の一部を見ることができます。また、近くから城門の礎石が見つかっています。

### ⑬ 小石垣城門跡



小石垣近くの川の中から礎石が発見されています。この付近は「太宰府旧跡全図 北図」に「門ノ石スエ」と記されており、百間石垣や北石垣と同じように、小石垣にも城門があったと考えられています。

### ⑭ 主城原礎石群



(資料提供：九州歴史資料館)

大野城跡中央部の高台にあります。ここでは掘立柱建物跡（4棟）と礎石建物跡（10棟）があります。3間×7間の掘立柱建物跡が発見されていることから、大野城跡内部の役所的な機能をもつ建物があったとも考えられています。

なお、建物群の南端にあたる前田地区では、大宰府政庁でも使われている文様磚や「館」と書かれた土器も見つかっています。

### ⑮ 尾花礎石群（焼米ヶ原）



採集された炭化米

県民の森センターから南東側に登った大野城跡の南の山頂部に位置します。近くの土塁の上からは、九州国立博物館や基肄城跡が展望できます。ここには10棟の礎石建物跡があり、そのうちの1棟の建物周辺からは、黒く炭化した米がたくさん採集されることから「焼米ヶ原」と呼ばれています。

### ⑯ 太宰府口城門跡



(資料提供：九州歴史資料館)

大野城跡最大の城門です。現在残っている門跡は、両側を石垣で組み、4本柱の瓦葺櫓門となるタイプで、奈良時代以降のもので、発掘調査の結果、3回建替えがあったことがわかっています。また、地鎮具が出土しており、門の建替え時に地鎮祭が行われていたと考えられています。

### ① 県民の森センター

四王寺県民の森センターは、明治百年記念事業の一環として、1976年6月にオープンし、管理館、研修館、展示館があります。また、センターを中心に大野城跡（四王寺山）の散策ができます。四王寺山は自然公園となっており、春の花、初夏の新緑、秋の紅葉や野鳥など、森の四季を感じながら森林浴を楽しむことができます。



【開園時間】 4月～9月／AM9:00～PM6:00  
10月～3月／AM9:00～PM5:00  
【休園日】 月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）  
12月29日～1月3日  
【住所】 福岡県糟屋郡宇美町大字四王寺 207  
【電話】 092-932-7373

### ② 子供の国広場



県民の森園内にあります。森林浴を楽しみながら、木製の遊具で遊ぶことができます。

### ③ 増長天礎石群



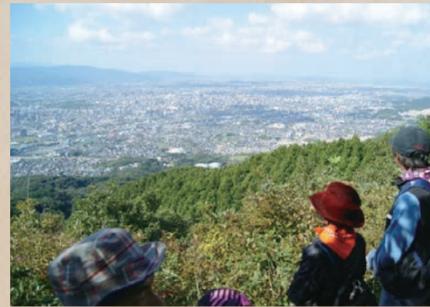
大野城跡南側の内周土塁に接して4棟の総柱建物跡がみついています。建物は、ほぼ東西方向に一列に並んで建てられています。発掘調査の結果、礎石建物の外周に掘立柱が立つ構造から、礎石建物だけの構造へ移り変わっていったことがわかっています。

### ④ 鏡ヶ池



増長天礎石群のそばにあります。池の水は水源がないにも関わらず、どんな渇水期でも枯れないといわれており、雨乞いに関する行事や伝説が数多く伝えられています。また、「武器浸けの池」とも呼ばれています。

### ⑤ 26番札所



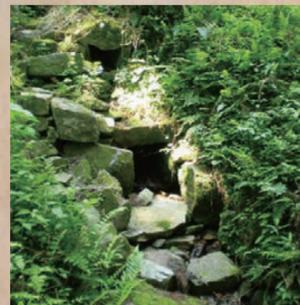
大野城跡では、土塁線上を中心に、三十三体の石仏群が点在しています。これは、江戸時代の寛政12年（1800年）に、四王寺の僧や博多の人々が発起人となり、近畿以西の西国三十三カ所霊場の「霊土」を集め、建立されたものです。ここ26番札所からは、福岡市街を一望できます。

### ⑥ 毘沙門堂



四王寺山の最高峰：大城山（410m）のそばにあります。普段は静寂に包まれていますが、正月3日、早朝から午前中にかけて、四王寺毘沙門詣り（宇美町指定無形民俗文化財）が行われ、多くの参拝客で賑わいます。参拝者は、お堂の前に置かれたお盆からお賽銭を借りて帰り、翌年の参拝のときに、借りたお賽銭の倍の額を返し、また新たにお賽銭を借りて帰るということを繰り返すものです。このお詣りをするだけで、1年間お金に不自由しないと伝えられています。

### ⑦ 屯水水門



県民の森音楽堂から西に少し下った谷部にあります。昭和51年に宇美町が実施した大野城跡現地調査で発見されました。本来は、石垣があり水門はこの石垣の構造の中にあつたと考えられています。水門部は極めて大きな石材で組まれており、内部は低い階段状になっています。

### ⑧ 百間石垣

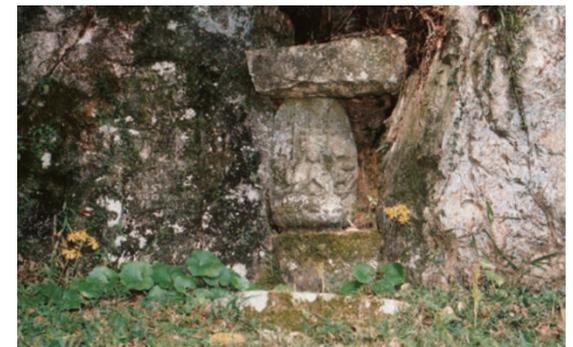


宇美側から四王寺山に登ると最初に目につくのが、宇美町内にある百間石垣です。百間石垣は、全長約180mの大野城跡最大の石垣です。内部まで石を積めた「総石垣」構造となっています。また、石垣の一部では隙間があり、そこから水が流れていることから、これも水門の一部と考えられています。

## 四王寺三十三体石仏

土塁線上を中心に、三十三体の石仏群が点在しています。石仏群の建立は、12番札所の岩壁に刻まれている銘によると、寛政12年（1800年）8月に四王寺の僧と博多の人々が発起人となり、西国三十三カ所霊場の「霊土」を集め建立したことがわかっています。

大正7年（1918年）に筑前参宮鉄道が開通したのに伴い、福岡日日新聞社が主催で四王寺三十三体石仏をめぐる「千人詣り」という行事が行われていました。この千人詣りは地元民間行事として昭和7年（1932年）頃まで、毎年10月22日に行われていました。



12番札所（千手観音菩薩）

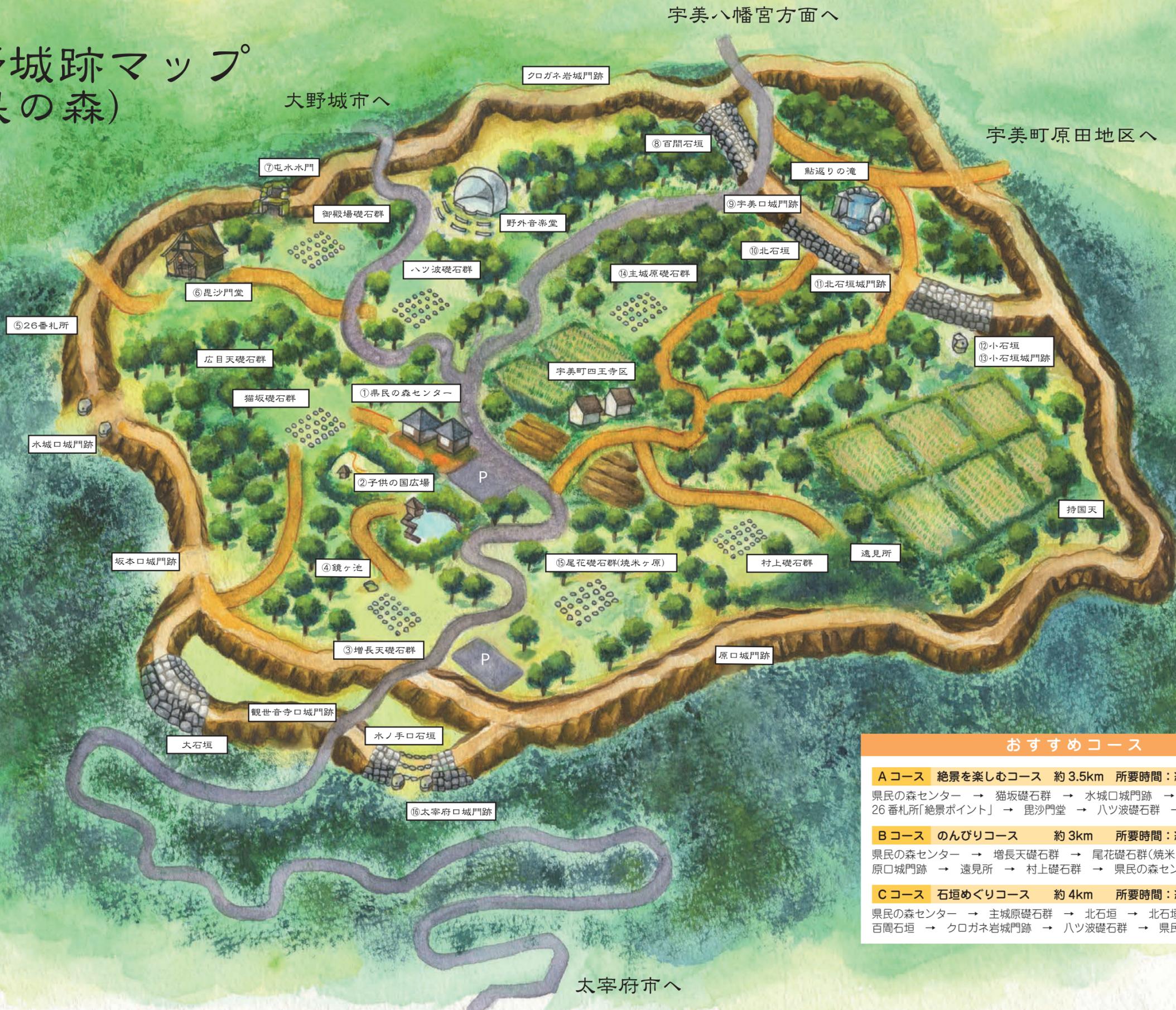


26番札所（千手観音菩薩）



32番札所（11面観音菩薩）

# 大野城跡マップ (県民の森)



## おすすめコース

- A コース 絶景を楽しむコース 約 3.5km 所要時間：約 2 時間**  
 県民の森センター → 猫坂礎石群 → 水城口城門跡 → 26 番札所「絶景ポイント」 → 毘沙門堂 → 八ツ波礎石群 → 県民の森センター
- B コース のんびりコース 約 3km 所要時間：約 1 時間 30 分**  
 県民の森センター → 増長天礎石群 → 尾花礎石群(焼米ヶ原) → 原口城門跡 → 遠見所 → 村上礎石群 → 県民の森センター
- C コース 石垣めぐりコース 約 4km 所要時間：約 2 時間 30 分**  
 県民の森センター → 主城原礎石群 → 北石垣 → 北石垣城門跡 → 百間石垣 → クロガネ岩城門跡 → 八ツ波礎石群 → 県民の森センター